



学校と家庭の関係は大切です

校長 清水 励

日々の寒さと木々の色づきに、例年以上に足早に来ては去ってしまう秋を感じております。

先日は、5年生の林間学校、そして、6年生の陸上競技大会と大きな行事を無事に終えることができました。コロナ禍での各行事の実施においては、これまでの知見を活かしつつ、対策の有効性と教育効果のバランスを考慮しながら取り組んでまいりたいと思います。御家庭におかれましては「体調に不安のある場合（本人・御家族）の登校」は引き続き**厳に控えていただく**とともに、季節の変わり目となりますので、日頃の健康管理には更なる御配慮をお願いいたします。

さて、10月最後の週より「教育相談」を実施し、保護者の方々に御来校いただいております。家庭訪問を簡略化している中、「学校と家庭の連携」を図る上で、「教育相談」はさらに大切な機会となっております。担任と話せる時間は限られておりますが、各学級での「教育相談」が実りあるものになること願っています。

今さらですが…「**学校と家庭の連携**」は、**子供たちの健やかな成長に欠かすことはできません**。分かりやすい例（悪い例ですが…）で考えると、「先生と親が、いつも違うことを言っている」「親が先生を、先生が親を批判するようなことを言っている」というような状況では、子供たちは誰を信じていいのかわからず、家庭や学校が安心した場所ではなくなってしまふことは明らかです。

小学校時代の私事で恐縮ですが、二つの出来事を記します。

一つ目は、母親が近所の人と電話で話していた時のこと。偶然、電話口で母親が「ある先生の陰口」を小声で言っているのを聞いてしまったことがあります。（その「ある先生」は、確かに今考えても、とても問題のある先生でしたが、時代の寛容性からか、責められもせずに勤めていました。）でも、「自分の親は正しく、間違ったことをしない」と信じていた自分の親が、近所の人と先生の陰口を言っているのを聞いてしまったとき、自分の中の何かが壊れたような淋しい思いが湧いてきて、電話口で話す母親の背中をじっと見ていました。

二つ目は、自分が悪さ（←かなりの悪さ）をして、ある先生にひどく叱られた時のこと。先生に「まったく、お前の親はどんな親なのか顔を見たい！」と言われたことがあります。なぜか急に母と父の笑顔が頭に浮かんできて、「学校では絶対に泣かない」と決めていた自分の目から涙が流れそうになり、天井をずっと見て耐えていました。「おい！どこ見てるんだ！こっち見ろ！」とさらに怒られました。悪いことをしたのは自分だと十分に分かっていたのですが、その先生のごことは「大嫌い」になりました。（残念ながら、学校に対して不信感のある大人の多くの方には、自分の子供時代にこのような経験をされている方が少なからずいらっしゃるのではないのでしょうか。）

やや、ネガティブな出来事を書いてしまったこと、御容赦いただければ幸いです。もちろん、これまで多くの保護者の方々に、学校教育への深い理解と御支援・御協力をいただき、自分のお子さんも他のお子さんも分け隔てなく大切にさせていただいてきました。「そこまでやってくださるのか！」とこちらが驚くほど、学校によかれと思うことを進んで行ってくださる方もいらっしゃいました。これは本当に有難いことであり、そのような保護者の方々がたくさんいらっしゃる「学校と家庭の望ましい関係」が築けると、明らかに子供たちの成長により兆しが表れてきます。また、簡単に解決できないことに対しても、共通の最終目的である「子供のより良き成長」を見つめながら、一緒に歩いていくことができ、多少のことではグラグラしない軸のぶれない支援・指導を行うことができます。本校、吹上小学校にも、「子供たち」という広い視点で、学校教育に御理解と御協力をいただける保護者の方々がたくさんいらっしゃることに、心から感謝申し上げます。

学校は決してサービス業ではありませんが、子供の教育に「第一義的な責任」のある保護者の方々の思いに十分寄り添いながら、より一層「開かれた学校」を推進し、子供たちが安心して自分を伸ばすことのできる吹上小学校にしたいと思っています。今後とも、よろしくをお願いいたします。